

芦別慈恵園における ターミナルケアの取り組み



特別養護老人ホーム 芦別慈恵園
看護師サブリーダー 佐藤妃呂美

はじめに



『芦別慈恵園・介護理念』

- ◆一人ひとりの生活や暮らしを大切に
- ◆最後の時まで口から食べる
- ◆家族と一緒に看取る

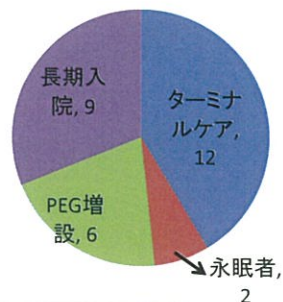
【ターミナルケア】

平成17年から実施



平成17年・・・10名
平成18年・・・10名
平成19年・・・8名
平成20年・・・12名（現在）

平成20年度 退居者数29名



ターミナルケアの指針



【看護体制】

- ◆人員配置・・・7名
 - *正職員・・・3名（看護師2名・准看護師1名）
 - *パート職員・・・4名（事業所兼務者を含む）

◆オンコール体制・・・重度化対応加算

ターミナルケアの指針



【事前の意向確認】

- ◆入居時・・・ご本人・ご家族
- ◆内容・・・「どこで」「どのように」「急変時」「病気について」
- ◆同意書の作成

ターミナルケアの指針



【多職種協働で取り組む】

- ・ 嘱託医 病状説明・往診
- ・ 看護師 ターミナルリスト作成
- ・ 管理栄養士 栄養ケア・マネジメント
- ・ 介護支援専門員 ケアプラン作成
- ・ 生活相談員 本人・家族の意向確認
- ・ 介護職員 ケアプラン作成

ターミナルケアの指針



【病状説明実施】

- ◆ 体調低下時 . . . 医師・看護師の判断
リストを作成
- ◆ 内容 「医師の説明」
「家族の意向」
「ケアの方向性」
- ◆ 同意書の作成

*** 体調の変化に応じ開催し、意向確認する**

内部研修



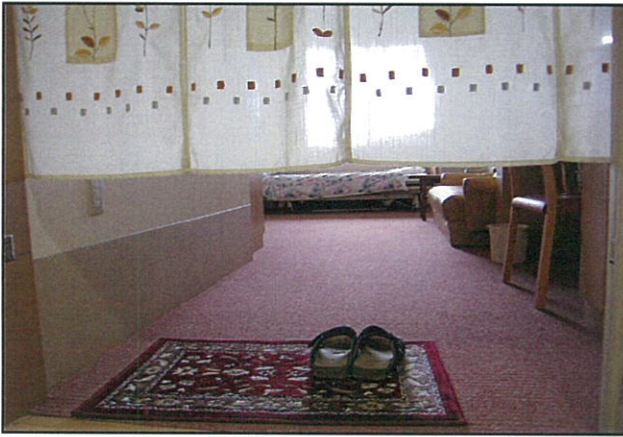
- ・ 体位変換
- ・ 新しい移動介助方法
- ・ 認知症への理解
- ・ 緊急時の対応
- ・ 暮らすということ
- ・ 看取るとということ

環境



- ◆ 基本は慣れ親しんだご自分のお部屋
(個室・2人室・4人室)
- ◆ 多床室～仕切りの工夫
- ◆ 医療器具に囲まれすぎず
- ◆ 静養室
- ◆ 家族宿泊室





課 題



『看取り介護の確立』

- * 嘱託医との連携
- * ご本人・ご家族の意向
- * 介護技術（知識）



M・S様
102年の人生

M・S 様

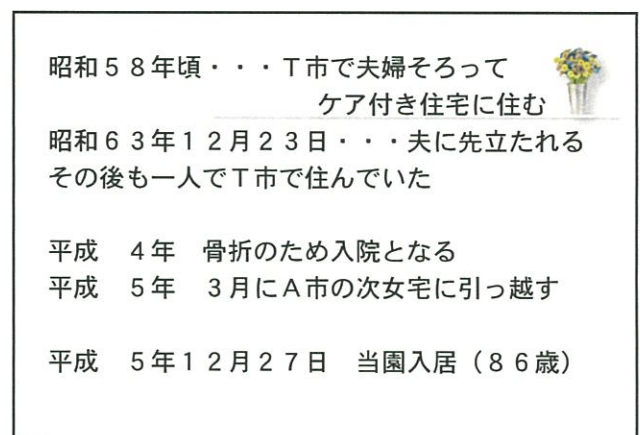


- 明治40年2月15日島根県生まれ
本当は、明治39年12月の末に生まれたから
Sと名付けられた
- 7歳の時に母が亡くなる
- 父に教わりご飯を炊くのが仕事だった
- 3年生になり裁縫を習うようになった
- 弟、妹ともに3人で級長になって
世間から褒められた
- 小学卒業後、奉公に出た




大正12年
10月8日
結婚する

子どもは、9人
息子が6人
娘が3人
授かった






次女様より
生前のお話を伺いました




母は...
とても正直な方だった
教育熱心で皆高校に
行かせてくれた



母は...
ホームを選ぶ時、
始めはいやだった...
でも、娘たちとあちこち
見学をして入居を決めた



母は、
 笑顔の素敵な人で、
 私(次女様)は常々、「母さんの
 笑顔は100万ドルのあたいが
 あるよ。なるべく笑顔で暮らして
 ね」
 と言っていました。




よく娘様に、
 「私は何でも
 自分で出来る」
 「1番うまく出来る」
 とおっしゃっており、
 本当に、
 何に対しても
 努力家でした。






ハンドベル同好会では、副会長を務めていました



相撲の星取りクイズでは、いつも入賞をしていました。

1位になったのも数えられないぐらいです。



平成9年6月10日

母は、自筆で遺言状を作成していました。



『死期を迎えた時は、
延命治療せず、
自然死を希望する』



幾つになっても、
お母さんから教わることは
沢山ありました。



ある時、「今日は夫が留守だから、
私1人ならフライパン1枚で間に
合うよ」と言ったら・・・



「食事というものは、自分の命を
養う儀式なのだから、
1人でもきちんとした
食事をしなさい」
と、言われました。



100歳を迎える頃まで
食事の準備もしてくれました。



100歳のお祝いを市長さんから
頂きました。



しっかりと挨拶していたのが
印象的でした。



母は自分が90歳だと
おもっていて、
まだまだ、何でも自分で
やらなくてはならないと
思っていたみたいです。

でも...

自分が100歳を過ぎていることが分
かったら徐々に体力が低下しました。

しかし、それでも医療に頼らず、
最後まで食事をしました。





「母は、とても厳しい人で、
私は、母から一度も
褒められたことがないんですよ」



「母がこんなに、きかないのも、
子どもの時に両親を早く亡くして、沢山の兄弟の面倒をみてきたからなんです。
相当苦労したそうですよ。
小さい時から自立心が
強かったんです」



意識がもうろうとしている中、
姉と一緒に母の大好きな

この「カチューシャの唄」を
歌いました。



そうすると、母は、
目をパチッと開けて、
3番までしっかりと歌いました。
姉も、私も涙が止まりませんでした。



平成20年8月10日
 家族が見守る中、
 静かに旅立たれました。



4人部屋での看取りについてどう
 思われたか伺うと...

同室者の方ともお話しする
 機会があってかえって
 良かったとおっしゃられました。



S様、いままで笑顔
 ありがとうございます。
 ゆっくりお休みください...



私は、病院との
 「看取りの違い」に
 気がつきました

施設での看取り



それは、

誰にでも訪れる

人生最後の時間...

自然なこととして...
尊厳ある一人の人として...
家族と一緒に長い人生を想う。



最後の時間を出来る限り、
穏やかに過ごせるように...



今後に向けて・・・



日常のケア向上



気持の通う介護が
出来る様に・・・